



第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会  
滋賀県開催準備委員会

子ども・若者参画特別委員会  
(ジュニア・ユースチーム)

# 第2期生 活動報告書

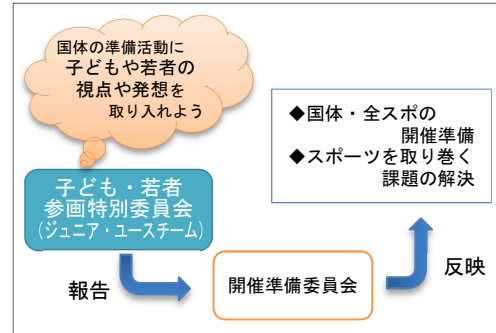
(活動期間:平成27年8月25日～平成28年3月12日)



## はじめに（ジュニア・ユースチームについて）

### ◎設置趣旨

平成36年(2024年)に第79回国民体育大会(国体)および第24回全国障害者スポーツ大会(全スポ)を本県で開催するにあたり、子どもや若者の視点や発想を両大会の開催準備や県のスポーツ振興に反映させることを目的に、開催準備委員会のもとに「子ども・若者参画特別委員会（通称：ジュニア・ユースチーム）」を設置した。この活動は国体・全スポを準備する先催県にはない滋賀オリジナルの取組である。



滋賀オリジナルの取組

### ◎活動内容

国体・全スポの開催準備や県のスポーツ振興に関する事項の中からテーマを設定し、必要な調査・体験活動を行い、意見をまとめ、開催準備委員会に報告する。

第2期生となる今回は「スポーツボランティア」をテーマとし、スポーツボランティアを取り巻く環境を調査するとともに、委員自らスポーツボランティアを体験し、その魅力や課題等について検討した。

回	内容	活動日
1	結団式、仲間づくり活動	8/25
2	紀の国わかやま国体 取材・見学	9/12
3	高校野球秋季県大会 取材・見学	10/3
4	滋賀レイクスターズ 運営ボランティア体験	10/11
5	講話、ミーティング	11/7
6	びわ湖若鮎駅伝大会 ボランティア実践	12/5
7	調査結果の整理、課題解決策の検討	1/16
8	活動のまとめ、報告資料づくり	2/14
9	活動報告会、解団式	3/12

### ◎委員募集

県内に居住、通学・通勤する小学4年生から大学生世代の子ども・若者を募集した。

今年度は小学4年生から大学4年生、25名が活動した。  
(p.14の第2期生メンバー参照)

	小学生	中学生	高校生	大学生	計
男子	3人	3人	4人	3人	13人
女子	5人	4人	1人	2人	12人
計	8人	7人	5人	5人	25人

募集チラシ

## 第1回 結団式・仲間づくり活動

(平成27年8月25日)

会場：びわこ成蹊スポーツ大学（大津市）

### ◎結団式

結団式では国体準備室木村室長より「滋賀県の子ども・若者の代表という気持ちを忘れず、元気に楽しく活動してください。」と激励があり、その後「子ども・若者参画特別委員会委員」の委嘱状が授与された。



委嘱状の授与

### ◎仲間づくり活動

結団式のあとは、交流を深めようということで仲間づくり活動を行った。この活動は1人では解決できない課題を協力して解決していく活動で、体を支え合ったり、アイデアを出し合ったりしないと解決できないものばかりだった。「絶対無理!」と思われた課題も、みんなが協力しながらクリアし、楽しく活動できた。



仲間づくり活動

### ◎取材内容の検討

仲間づくり活動のあとは、国体と全スポの概要や今年度のテーマ、活動内容の説明があった。

そのあと、グループに分かれ、次回以降で行うインタビューの質問事項を考えた。スポーツボランティアの魅力や課題、またどういう人たちが携わっているのか等、たくさんの項目を出し合うことができた。



取材内容の検討

## 第2回 紀の国わかやま国体 取材・見学

(平成27年9月12日)

会場：和歌山ビッグホエール（和歌山市）

### ◎国体会場の見学

「紀の国わかやま国体」の体操競技会場である和歌山ビッグホエールで取材・見学を行った。その日は入場制限がかかるほど観客も多く、広くて緊張感のある会場の雰囲気圧迫された。



国体操競技会の観戦

### ◎インタビュー調査

見学後、会場でボランティアとして協力されている方々に仕事内容や参加動機、魅力や困っている事などについて

インタビューを行った。

インタビュー前は、「ボランティアを嫌々やっているのでは？」という思いをもつメンバーもいたが、そんなことはまったくなく、来場者やふるさとである和歌山県のことを思いながら、いきいきと活動されていた。皆さんの活動のエネルギーは、周囲からの「ありがとう」の言葉や頑張る選手の姿を見ることにあるのではないかと感じた。



国体ボランティアへの取材

### 第3回 高校野球秋季大会 取材・見学

(平成27年10月3日)

会場：皇子山総合運動公園野球場（大津市）

#### ◎試合観戦とインタビュー調査

この日は高校野球秋季県大会の決勝戦と三位決定戦が行われていた。試合観戦をしながら、試合を舞台裏で支える方々にインタビューを行った。

高校野球の大会役員は、ほとんどが高校の野球部の先生だった。「選手が試合ごとに成長する姿を見るのが楽しみ」「選手の力が発揮されるように準備したい」「滋賀県のチームがもっと強くなるようにしたい」と、皆さんそれぞれに思いをもって活動されていた。

審判員の皆さんは一般のサラリーマンの方がほとんどで、普段から練習試合などで腕を磨き、ルール勉強をされているということだった。夏の大会などは平日にも試合があり、仕事との調整が大変だということや、家族と過ごす時間がおろそかにならないように気をつけているということだった。

また、選手紹介などの場内アナウンスは、高校の放送部の皆さんが務められていた。場内放送ということで放送室には独特の緊張感があった。聞き取りやすいきれいな声でスラスラと話す姿はさすが放送部だった。放送部員には、野球のルールをまったく知らない人もいて、ルールを覚えるが大変ということだった。さらに、学校近くの球場で練習試合がある時は、試合でアナウンスの経験を積むなど、ボランティアをするために普段から努力されていることが分かった。



高校野球の観戦



審判員への取材



場内アナウンスの様子

## 第4回 滋賀レクスターズ運営ボランティア体験

(平成27年10月11日)

会場：滋賀県立体育館（大津市）

### ◎運営ボランティア体験

試合開始の4時間前に集合し、揃いのスタッフジャンパーに着替え、観客の入る前の会場を案内してもらい、トイレや売店などの場所を確認した。その後、チラシの袋詰めや、チケット販売などの担当に分かれて準備をした。

試合開始の2時間半前になると、観客の入場が始まり、チラシの配布、チケットのチェック、案内・誘導などの仕事が始まった。各自大きな声で挨拶することを心がけた。

試合が始まると今度は、使わない場所の片付けを行った。そして、作業が一段落すると、少しだけ試合を見せてもらうことができた。試合の後は、出場していた選手と記念撮影を行い、間近で選手にふれあうことができ、よい思い出になった。

最後は観客が帰った後、会場のゴミ拾いや横断幕の撤収などを行った。メンバーからは「疲れたあ〜」という声も聞かれたが、「笑顔が大事」「達成感があった」「いろんな人に出会えて楽しかった」などの感想があり、有意義な体験ができた。



試合会場の確認



チラシの配布



チケットの確認



仕事の合間に試合観戦



試合後、選手とハイタッチ



横断幕の片付け

#### ～スポーツボランティアを体験してわかったことや感想～

- ・タイムスケジュールがものすごく細かく、仕事の種類が多い。
- ・小学生でもできる仕事があった。
- ・スポーツボランティアの仕事ぶりは試合への印象につながる。
- ・お客さんが「また来たい」と思えるようなちょっとした気遣いが大切。
- ・スポーツボランティアの良さはたくさんの人と関わること。
- ・笑顔で素早くはきはきと対応する事が大切。
- ・あいさつするとお客さんが返してくれたのでとてもうれしかった。
- ・大変な仕事だけど、嬉しさ、達成感、やりがいを感じられる。
- ・相手に伝わりやすい話し方を考えさせられた。
- ・大変だったが「ありがとう」「頑張れ」と言われてすごくうれしかった。
- ・今後、小さなことでもボランティアをして、スタッフ側になってみたいと思った。
- ・人と接するときは笑顔を大切にしようと思った。



会場：守山駅前コミュニティホール（守山市）

### ◎有識者による講話

埼玉県から文教大学の二宮 雅也先生にお越しいただき、「スポーツボランティアの現状」についてお話いただいた。先生からは「東京マラソンにはボランティアが1万人必要で、その募集はたったの1日で終わる」ことや、「ロンドン五輪のボランティアには24万人が応募して、面接などで7万人が採用された」ことなど、スポーツイベントの中には、したくてもできないボランティアがあることや、スポーツを「する」「みる」以外に、スポーツを「支える」という楽しみ方も増えてきていることを教えていただいた。



二宮先生の講話

### ◎グループ討議

講話に引き続き、右図のテーマについてグループ討議を行った。特に、「スポーツボランティアは『無償』か？『有償』か？」については様々な意見が出て、お互いの考えを深めることができた。

- グループ討議のテーマ**
- ① スポボラの「楽しさ」「大切さ」「喜び」とは何か？
  - ② スポボラは「無償」「有償」どっちがいいの？
  - ③ スポボラは学校で学べるか？

講師の二宮先生からはスポーツボランティアは、「楽しさや喜びがないと続かない」「労働とボランティアは違う」「支える人がいるからスポーツを楽しめる」ということを理解しておく必要があり、今後スポーツボランティアを育てていくためには、ボランティアする人たちが周囲の人にその働きや存在を認められる環境づくりが必要だと教えていただいた。



グループ討議の様子

### ◎ボランティア企画の内容検討

私たちは、「スポーツボランティア」をテーマとした調査・体験活動の締めくくりとして、知的障害のある方が参加する「びわ湖若鮎駅伝大会」において、自分たちが考えたボランティア企画を実践することを目標に活動をしてきた。そこで、大会実行委員会の外田 順一さん（YASUIほほえみクラブマネジャー）から大会の概要を説明いただき、「びわ湖若鮎駅伝大会」でどんなことをすれば喜ばれるか、また自分たちがどんなことをすれば楽しめるかという観点でボランティア企画の内容を検討した。



アイデアを出し合う

最終的にランナーが一目見たら頑張れるメッセージボードを作って応援するということと、来場者に自分たちで作ったバルーンアートをプレゼントすることに決まった。

- ～決定した企画～**
- ① ランナーを応援する  
**メッセージボード**の作成
  - ② ランナー・観覧者へ  
**バルーンアート**のプレゼント

会場：野洲市野洲川河川公園（野洲市）

### ◎メッセージボードでの応援

午前中のレースに向けて、まず、メッセージボードを作成した。

「頑張っている人に『ガンバレ』で応援するのは失礼ではないか」という意見もあり、メンバーの中での決め事として、「ガンバレ」以外でメッセージを作ることにした。



応援メッセージを書き込む



沿道での応援

沿道で応援していると、「ありがとう」と返事をしてくれる選手、手を上げて笑顔で答えてくれる選手、応援している私たちの前で急にスピードを上げて走ってくれる選手がいて、とても応援のしがいがあった。選手の一所懸命な姿を見ていると自然に応援にも熱が入り、楽しく応援することができた。

### ◎バルーンアートのプレゼント

午後からは、バルーンアートづくり挑戦した。バルーンアートの経験者が中心となり、メンバーにつくり方を教えながら用意した。犬、花、キリンなど、様々な作品ができ上がった。もらってくれるのか不安もあったが、すぐになくなり、大変盛況であった。



バルーンアートコーナー



来場者へプレゼント

来場者の皆さんと交流しながら、多くの人たちに楽しんでいただくことができ、また笑顔にすることができた。それに加えて、私たち自身も楽しめて大変良い活動となった。

### ◎スポーツ教室

バルーンアートのプレゼントを終えた後、主催者が企画する陸上教室・ニュースポーツ教室に参加した。陸上教室ではストレッチングやボールを使ったトレーニングを教えてもらい、ジャベリックスロー（小中学生版のやり投げ種目）にも挑戦した。ニュースポーツ教室ではグラウンドゴルフを体験し、レースに参加した選手の皆さんと楽しく過ごせた。



ジャベリックスローに挑戦



グラウンドゴルフ体験

## 第7回 調査結果の整理・課題解決策の検討 (平成28年1月16日)

会場：滋賀県庁（大津市）

### ◎調査結果の整理

これまでの取材結果や感想を付箋に書き出し、種類ごとに分けて次のとおり整理した。



#### Q1. どのような経歴や立場の人が関わっている？

私たちが取材した会場では、定年退職をした人、指導者や元選手であったスポーツ関係者、もうすでに何度もボランティアを経験している方、地元の方、そして会社や高校の部活でお願いされてきている人など、様々な経歴や立場の方が関わっていることがわかった。

#### Q2. 始めた理由やきっかけは？

「スポーツへの恩返しをしたい」「地元に貢献したい」「人の役に立てる」など、人のためになるからという理由の人もいれば、「新しいチャレンジをしたい」「お金では買えない経験ができる」など、自分の成長のために参加しようと考えている人もいた。また、「試合や選手を近くで見られる」「スポーツが好き」などの理由から参加する人や、「友人に誘われた・頼まれた」「募集を見て興味がわいた」などの理由から参加しようと考えた人もいた。

#### Q3. ボランティアの仕事や役割は？

来場された方々へのチラシの袋詰めや配布、会場案内や誘導、会場の準備やごみ拾いなどの後始末、試合の記録、チケット販売、場内放送など、他にも様々な仕事をボランティアの皆さんが担当されていた。どの仕事もなくてはならない仕事で、試合やスポーツイベントはボランティアがいて成り立っていることがわかった。

#### Q4. どんな気持ちで関わっている？

「選手が気持ちよくプレイできるようにしたい」「来場者に喜んでもらいたい」「安心して試合を見てもらえるようにしたい」「周囲に迷惑をかけないようにしたい」「これからもスポーツに関わり続けたい」という声が聞かれた。ボランティアの皆さんから、スポーツイベントの成功に熱意をもって取り組む姿勢が見られた。



#### Q5. 魅力や楽しみは？

「選手から元気がもらえる」「選手の頑張りが肌で感じられる」「感動できる」など、選手や試合が間近で見られることや、「普段は入れない舞台裏が見られる」「ルールなどスポーツに詳しくなれる」など、より深くスポーツに関与できるという答えがあった。また、「貴重な経験ができる」「出会いがある」「達成感・充実感が味わえる」「人生経験が豊かになる」など、様々な体験や出会い・交流ができるのが魅力だと答える方もいた。

#### Q6. 困っていることや大変なことは？

「仕事や行事との両立」「休日がなくなる」「家族の理解を得る」など、周囲との調整が大変だということや、トラブルの起こる最前線での活動が多いので、「クレームがあった時の対応」「担当業務以外のことも尋ねられるので困る」「慣れない作業をして疲れる」という声があった。さらに、現場の状況としては、「人手が足りない」「仕事が多い」など現状が見られた。

#### ◎課題解決策の検討

調査結果から、「自主的に参加しようとするスポーツボランティアはどうすれば増やすことができるのか」を課題として取り上げ、スポーツボランティアの増員策に対するアイデアを出し合った。



自分のアイデアを  
メンバーに説明する



アイデアをまとめる  
高校生・大学生委員

## 第8回 活動のまとめ・報告資料づくり

(平成28年2月14日)

会場：滋賀県庁（大津市）

前回に引き続き、スポーツボランティアの増員策を検討し、報告する資料の確認・修正を行った。



報告内容の検討



報告資料の確認・修正



アイデアを模造紙に書き出す

会場：コラボしが21（大津市）

◎活動報告会

スポーツボランティアについての調査・体験活動から明らかになったことを整理して、スポーツボランティアの増員策などを次のとおり発表した。会場には、今回の活動でお世話になった方々をはじめ約40名の皆さんにお越しいただいた。



活動報告会の様子

◆スポボラパワーアップ大作戦

スポーツボランティアの増員策を「スポボラパワーアップ大作戦」としてまとめた。

作戦その1「情報発信」

(1) スポボラの宣伝

スポーツボランティアの宣伝をするために、例えばスポーツボランティアの経験者にSNS（ツイッター、フェイスブックなど）を通じて魅力や楽しさを発信してもらうことや、バスや電車の横にスポーツイベントの宣伝とともにスポーツボランティア募集の宣伝することを考えた。

**スポボラパワーアップ大作戦①**

**作戦その1 情報発信**

**スポボラの宣伝**

- ・参加者からSNSで魅力発信
- ・バスや電車での宣伝

**来場者への呼びかけ**

- ・スポーツに関心のある人への情報発信
- ・将来は「見る人」から「支える人」へ

**スポボラカレンダーの作成**

- ・時間、場所、内容を表示
- ・仲間と計画して参加可能

行ってみる？
行ってみよう！

今度は  
 スポーツを支える側になってみませんか？

スポボラカレンダー 〇月		
1日	〇〇〇大会	7:00集合 受付係〇名…
2日	レクリエーション	9:00集合 サラシ監督係〇名…
3日	アトラクション	9:00集合 観望係〇名…
4日	〇〇〇大会	9:00集合 清掃係〇名…
5日	レクリエーション	7:30集合 観望係〇名…

(2) スポーツイベント来場者への呼びかけ

情報発信はとても大切だが、スポーツへの関心のない人にスポーツボランティアの魅力伝えてもなかなか伝わるものではない。少しでもスポーツに関心のある方に呼びかけた方がよいのではないかとということで、スポーツイベントや試合観戦に来られている方に対して、情報発信することを考えた。

今はスポーツを応援する「みる人」でも、将来は「支える人」になってスポーツに関わってもらうために、スポーツイベントや試合の来場者にこそスポーツボランティアの魅力や面白さを知ってもらう取組が必要なのではないかと思った。

(3) スポボラカレンダーの作成

スポーツボランティアに行きたいと思ったときに行けるように、スポーツボランティアを必要とするイベントのカレンダーを作ってはどうかと考えた。県内で行われる様々なスポーツイベントに必要なスポーツボランティアの情報をカレンダーで表示することで、計画的に参加することが可能となる。また、スポーツボランティアに行きたいと思っていても一人ではなかなかいけないものだが、予定がわかっていると、友達と一緒に興味のあるイベントに参加できるので参加者の増加につながると思う。

9

## 作戦その2「場づくり」

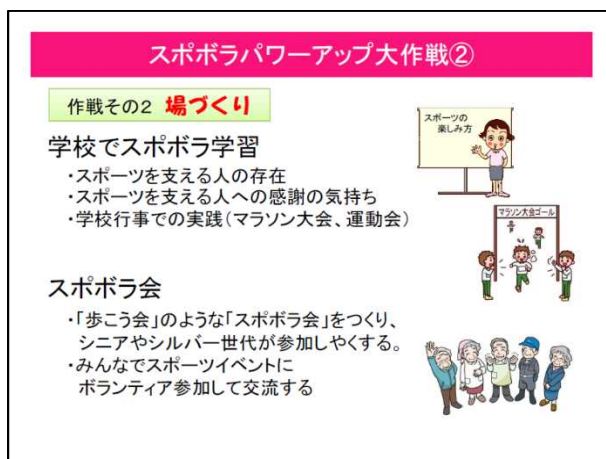
### (1) 学校でスポボラ学習

学校でスポーツボランティアについて学ぶことができるのではと考えた。学校に通う私たちは主にスポーツを「する側」であり、「みる側」だが、スポーツを「支える人」がいるからスポーツを楽しむことができるということを知っておく必要があり、スポーツを「支える人」の存在やその仕事を知ることによって、今まで以上に感謝しながらスポーツをしたり、みたりすることができるようになると思う。

また、教室での学習のほかに、マラソン大会や運動会の場面でスポーツボランティアの役割を実践することもできるのではないかと考えた。

### (2) スポボラ会の結成

シニアやシルバー世代が参加する「歩こう会」「歌おう会」のような「スポボラ会」をつくり、みんなで決まったイベントにボランティア参加して交流する取組も必要ではないかと考えた。

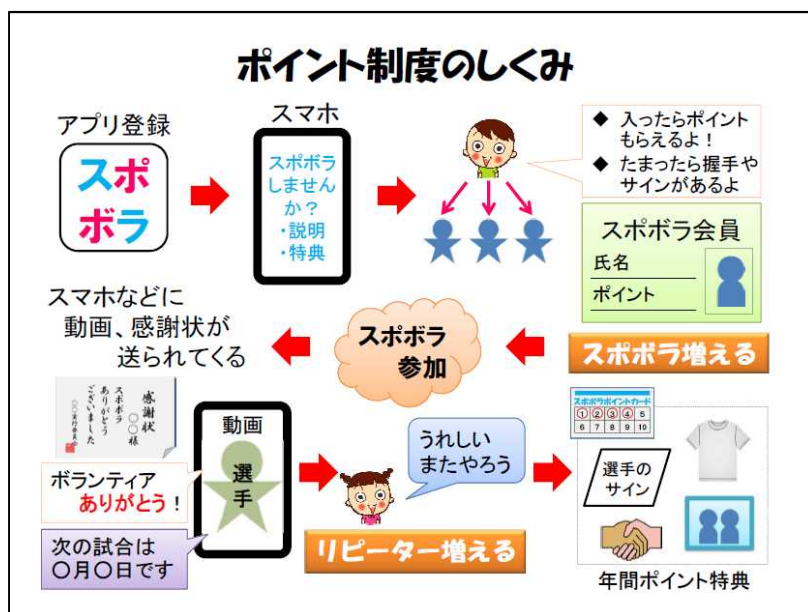


## 作戦その3「参加特典」

### (1) ポイント制度と感謝の気持ち（下図「ポイント制度のしくみ」参照）

スポボラアプリを作り、登録してもらおうと、スポーツボランティアの情報が入ってくる。そこには参加によってもらえるポイントの情報もあり、友達や仲間にラインやメールなどで広めて、仲間と一緒に「スポボラ会員」に登録する。そうすることによって、スポーツボランティアは少しずつ増えていくと考えた。

そして、スポーツボランティア参加者には、数日後、スマホやパソコンに主催者や選手から感謝のメッセージ動画が送られてくる。スマホやパソコンを利用しない人には手紙や感謝状が送られるようにしておくというシステムである。私たちがボラン



ティア体験をして感じたことだが、「ありがとう」と一言言ってもらえるだけで、やる気が断然変わってくる。だから、この感謝の気持ちを伝えることはとても大切だと考えた。また、感謝の気持ちを伝えるのと同時に次回の募集案内もできるので一石二鳥になる。

また、感謝の気持ちを伝えられると「うれしい」「またやろう」という気持ちにもなり、スポーツボランティアのリピーターも増えるのではないかと思う。そして、参加を続けてくれた人たちには、サイン、写真、握手会、記念Tシャツなどポイントに応じた特典を用意して、また来年も頑張ろうという気持ちになってもらおうというものである。

## (2) 参加経費

スポーツボランティアの参加経費については、無償とは言え交通費が支給されると参加しやすくなるし、一日の活動ならば昼食が出るという事なしになる。



## ◆スポボラ心得7ヶ条

今回の活動を通して感じたことを多くの皆さんに知ってもらうとともに、スポーツボランティアに対する望ましい認識・理解を広めるために、「スポボラ心得7ヶ条」としてまとめた。この7ヶ条はスポーツボランティアにこれから参加する人、スポーツボランティアを募集するスポーツイベントの主催者、スポーツイベントに参加する人（選手など）に向けたメッセージでもある。

### スポボラ心得 7ヶ条

**スポボラに参加する人へ**

1. スポボラは自主的に行う無償の社会貢献活動であると心得よう
2. 元気なあいさつと笑顔を心がけよう
3. 競技ルールを知っておこう
4. 責任と思いやりをもって役割を果たそう

**主催者・参加者（選手）へ**

5. スポボラを支えるのは感謝の言葉と心得よう
6. スポボラの意見や感想をしっかりと聞こう
7. 選手との交流や観戦できる場面をつくろう

## スポボラ心得7ヶ条

### スポボラに参加する人へ

1. スポボラは自主的に行う無償の社会貢献活動であると心得よう
  - ・誰かに強制されるのではなく、自ら進んで行うものです。
  - ・やってあげるものではなく、楽しみながらやりたいからやる活動です。
  - ・報酬は周囲からの「ありがとう」です。
2. 元気なあいさつと笑顔を心がけよう
  - ・その日に初めて会う人が大半です。みんなで気持ちよく過ごすためにも元気なあいさつを心がけましょう。
  - ・一人ひとりの笑顔や言葉づかいがイベントの成功につながります。
3. 競技ルールを知っておこう
  - ・ルールを知っているとより一層楽しむことができます。
  - ・ルールと違う誤った行動や案内をしてしまい、運営に支障をきたす恐れもあります。
4. 責任と思いやりをもって役割を果たそう
  - ・どんな役割を任されるかは自分で決められませんが、すべて必要な役割です。
  - ・「自分はボランティアだから」という考えではなく、主催者の一員という自覚をもちましょう。
  - ・参加者に対する思いやりをもって活動しましょう。

### 主催者・参加者（選手）へ

5. スポボラを支えるのは感謝の言葉と心得よう
  - ・スポボラには感謝の気持ちをもって接しましょう。
  - ・スポボラの喜びは「感謝の言葉」と「その働きを認められること」です。
6. スポボラの意見や感想をしっかりと聞こう
  - ・苦情やトラブルに一番近いのがスポボラです。
  - ・スポボラの意見をよく聞き、一緒に考えることによって、さらに良いイベントになっていきます。
7. 選手との交流や観戦できる場面をつくろう
  - ・「試合観戦ができるかな」「選手に会えるかな」と期待している人は多い。
  - ・特に初心者には、選手や試合が見える役割を担当してもらいましょう。

## ◎解団式

### 1. 知事のあいさつ（要旨）

ジュニア・ユースチーム第2期生として、8ヶ月間活動していただきました皆さんの取組・活動に心から敬意を表し、感謝を申し上げたいと思います。

今回皆さんがテーマにいただいた「スポーツボランティア」は、スポーツを「する人」「みる人」同様、スポーツ大会・スポーツイベントを支えるくださる役割としても大切です。



知事のあいさつ

また、皆さんに発表していただいた「スポボラ心得7ヶ条」ですが、どれもいい条文だなと思います。皆さんがつくってくださった「7ヶ条」をみんなに広めていきたいなと思います。

8年後に滋賀県で国体と全国障害者スポーツ大会を開催させていただけることになっています。その時に向けて、スポーツボランティアをたくさんつくっていききたいな、皆さんに応援していただけるそういう滋賀県をつくっていききたいなと考えています。

どうか皆さんも、さらにいろんな経験をしていただいてご協力いただけたら嬉しいなと思います。

皆さんの精力的な取組に重ねて感謝を申し上げ、御礼申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。一緒に滋賀県を盛り上げていきましょう。これからもよろしく願いいたします。ありがとうございました。

## 2. 認定書の授与

解団式では、三日月知事より「国体・全スポフレンド\*」認定書が授与された。

\*国体・全スポフレンドとは、今後の大会準備に関連する活動への参画など、大会サポーターとして関わりを継続してもらうことを期待して認定。2024年には国体の総合開会式に招待する予定。



認定書の授与

## 3. 委員代表者あいさつ 中学2年 板原 瑞月さん

「ジュニア・ユースチーム 2期生」を代表して、活動を通して気付いたことや学んだことを述べたいと思います。

私が参加したきっかけは、学校の先生からの「行ってみないか」という言葉でした。私は幼い頃より水泳をしており、選手として大会に出場させてもらっていました。しかし、大会を選手としての視点からしか見ていなかったため、運営の視点で見ると面白いかもかもしれないと思いました。

紀の国わかやま国体と高校野球では、審判、会場案内、放送の方にインタビューさせていただき、滋賀レイクスターズの試合とびわ湖若鮎駅伝大会では、会場での資料配布や選手と観客へのサービスを体験しました。初めて出会う人や年齢の離れた人とうまく話せるのか、しっかり活動できるのか不安でしたが、スポーツボランティアとして大会やイベントの運営に参加されている方々は、優しくにこやかで、そのような不安は吹き飛んでしまいました。

ボランティアの方々は「役に立てることが嬉しい」「お金では買えないものが得られる」と言っておられました。私も実際に体験してみて、思っていた以上に大変だと感じることはありましたが、「みんなで大会や選手を支えている」というやりがいを感じ、これからもやってみたいと思うようになりました。

活動の後半のまとめや話し合いの場では、自分では絶対に思い付くことのできなかつた意見を出してくれるメンバーもいてくれて、仲間と協力することでアイデアも、より良いものになっていくと気づきました。これは、なんでも自分でやろうとしがちだった私を変えるきっかけになったと思います。

今回学ばせていただいたことを糧にボランティア精神を発揮して誰かの役に立てることを少しずつしていきたいと思います。2024年に滋賀で開催される国体では、自分が水泳の選手としてその場にいたい思いがありますが、大会の運営を支える側にもなりたいと思っています。

最後になりますが、私に成長する機会を与えてくださった準備委員会のみなさん、一緒に活動してくれたメンバー、取材や体験をさせてくださったスポーツボランティアのみなさん、本当にありがとうございました。



委員代表者のあいさつ

## さいごに

私たちが考え、発表したことが少しでも「スポーツボランティアの活性化」に役立ってくれればと思う。

このような貴重な活動に参加させてもらい、とても充実した時間を過ごすことができた。再びこのメンバーで集まり、8年後の国体・全国障害者スポーツ大会に向けて協力できればと思う。

ジュニア・ユースチーム第2期生の活動に御協力いただいた関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

### <ジュニア・ユースチーム 第2期生メンバー>

No.	氏名	学年	No.	氏名	学年
1	覚前 勇志郎	小学 4 年	14	堂田 沙耶加	中学 2 年
2	田中 経時	〃 4 年	15	橋本 和歩	〃 3 年
3	大原 実花子	〃 5 年	16	田中 凌	高校 1 年
4	川北 あか音	〃 6 年	17	松下 拓実	〃 1 年
5	田中 夏稀	〃 6 年	18	大西 花歩	〃 2 年
6	内藤 千晴	〃 6 年	19	西川 雅	〃 2 年
7	福本 真緒	〃 6 年	20	増井 和真	〃 2 年
8	山本 菜々実	〃 6 年	21	二森 翔大	大学 1 年
9	安部 裕嘉	中学 1 年	22	沼 綾美	〃 2 年
10	中村 恵香	〃 1 年	23	柳沢 裕哉	〃 2 年
11	板原 瑞月	〃 2 年	24	富田 桜	〃 4 年
12	菊田 陽世	〃 2 年	25	山本 尚路	〃 3 年
13	古平 義行	〃 2 年			



第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会  
滋賀県開催準備委員会事務局  
〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号  
(滋賀県総合政策部国体準備室内)

TEL 077-528-3321

FAX 077-528-4832